

第7回 苫小牧市中小企業振興審議会要旨

1 日 時 令和3年3月19日（水） 13：30～14：40

2 場 所 苫小牧市役所職員会館3階 304会議室

3 出 席

(1) 苫小牧市中小企業振興審議会委員

秋山委員、伊藤委員、遠藤委員、太田委員、尾崎委員、須田委員、
高橋委員、坂本委員、平井委員、渡辺委員、綿貫委員

※西山委員、多田委員、吉川委員は欠席

(2) 事務局（市）

産業経済部 : 金谷部長

産業振興室 : 白川室長

企業政策室 : 早崎室長

商業振興課 : 小泉課長、新田主査、長谷川主査、朝倉主事

工業・雇用振興課 : 木澤課長、今井主事、小野寺主事

4 概 要

(1) 開会

・苫小牧市中小企業振興審議会開会（委員14名中11名出席、苫小牧市中小企業審議会規則第4条第2項の規程による審議会開催の定足数を満たしている）

(2) 議事

① 第6回各部会の報告等について

(ア) 創業促進・事業承継部会 遠藤部会長より。

●創業については、若い人や学生、女性からの視点も重要であり、コミュニティを作った中でどう進めて課題解決していくか。専門家を呼んでスタートアップに繋がれると良い。

●事業承継はあまり部会で触れられなかったので、今後の必要性について報告書に明記する。

●国と北海道の事業である事業承継引継ぎセンターが4月から一つになり、そのサテライトを経済センタービル2階に設置する動きがあり、事業承継を考えている事業者にとって分かりやすく相談がしやすい環境になると思う。

(イ) 人材確保・育成部会 秋山部会長より。

●次期部会への申し送り事項に関する意見をまとめた。

・中小企業が単独で人材育成プログラムをつくるのは難しいので力を入れて欲しい。

・ICTの活用が人材確保・人材育成にどのように寄与するのか事業の検討をお願いしたい。

・人材確保と人材育成では、人材確保に足軸があるように感じる。人材育成に関することをもう少し強化してほしい。

- ・画一的な研修参加費用の助成ではなく、人材育成コンサルタントの依頼費や、企業独自の人材育成計画策定などの人材育成の費用を助成する事業を執行してほしい。
- ・人口増に関する施策に取り組んでいただきたい。
- 新型コロナウイルス感染症の影響に関する意見をまとめた。
 - ・ICTについての具体的な相談の出来る企業が苦小牧市内には少ないので、学生などで情報系に強い方々のようなICT人材の確保、育成への支援が必要。
 - ・会議や面接はオンライン化しているが、コロナ感染症の影響が終息すれば対面に戻ると考えており、オンラインに置き換わる部分とそうでない部分が出てくる。
 - ・市内の中小企業がICTの利活用が出来なくなって困っているのか、それともニーズそのものがないか把握出来ていないので、是非把握してほしい。
 - ・旅費や出張費、交通費、通勤費が当初の予算ほど使われていない反面、リモートの手当てや備品の準備にかかる費用が新たに発生している。
- 全体をまとめると、
 - ・人材確保だけでなく、人材育成にも積極的に取り組んでほしい。
 - ・市内事業者にICTがどのようにニーズが発生したのかが全体を掴み切れていないので、把握が必要。

(ウ) 販路拡大・需要開拓部会 坂本部長より。

- 行政が企業に直接経営コンサルするのではなく、支援してくれる機関等にマッチングしてあげる、さらに支援先機関等の掘り起こしや、情報交換できるコミュニティの場を設けることが行政の立ち位置として必要。異業種間交流会を開催しコミュニティの場を設け、新たな販路拡大への改善アイデアに繋げる取り組みを行ってほしい
- 行政が主催するセミナーにおいてはすべて無料で実施するのではなく、有料で実施した方が良い企画もあるのでは
- 新たなアイデアを実現していく為、社労士の先生や税理士の先生に繋がるよう等、いつでもコミュニティにアクセスができ、自然に集まっているようなアイデアを出し合える場所が必要。その場では、ウェブ等のICTを活用し、小規模なスキルマーケット、例えば似顔絵ケーキの作成・結婚式の動画、PC等のようなマッチングサイトを構築することで、新たな販路拡大に繋がるのではないかと
- 全体をまとめると、
 - ・行政の立ち位置を明確にし、異業種間の交流ができ新たなアイデアを出し合えるコミュニティの場を形成する。
 - ・ICTを利用した具体的な販路拡大の手法を構築。

-----質疑なし-----

② 第4期審議会報告書（各部会）のまとめについて

・事務局より、第4期中小企業振興審議会報告書(案)（資料1）について提出。審議会や部会にて議論してきた結果と第5期への継続審議事項について、内容チェック、確認、意見を求めた。

----- 3分ほど内容確認後、質疑 -----

----- 質疑なし -----

○高橋会長

第4期は、具体的な政策を導くためにそれぞれの部会からさまざまな意見を徴収できたと思う。新しい取組として、ブレーストーミングにてハッピーエンド、バッドエンドから導き出される解決策を導き出したり、部会の枠を超えて意見交換を行ったり、コロナ禍ではあったが第5期に繋げるための政策の導き出しや、皆様方から多数の意見をいただいた会だったと思う。

後で気付いたことや軽微な変更があれば、来週の25日までに事務局に連絡願う。

(3) 報告

① 苫小牧市事業者向け支援策普及事業について

・事務局より、資料2、3に基づいて感染症の市内事業者への影響等を、経営面、給与・雇用状況、採用、働き方、市や国等の支援策について調査を行った結果を報告した。

----- 質疑なし -----

○高橋会長

調査基準日は昨年9月1日時点と少し時差はあるが、市内全事業者を対象とした新型コロナウイルス感染症の影響調査ということで、参考になるところもあるかと思う。

② 創業促進イベント開催（Startup Weekend Tomakomai）について

・事務局より、令和3年2月26日から28日の3日間、ココトマにてコロナ感染防止対策をしっかりと行ったうえで開催された創業促進イベントについて、資料4に基づいて報告した。

○高橋会長

自分もジャッジとして参加したが、無事開催できたことを安堵している。苫小牧で高専生、学生、主婦、サラリーマンの方々、若い方々が色んな発想を持って、たった3日間で創業の疑似体験する内容だが、例えば関東ではビジネスの発想に対して支援者がお金をつけて実際に3日間くらいでモデリングというサンプルの

ようなものを作り、それが素晴らしければ投資してビジネスに繋がるという事が行われている。

苫小牧はまだ発信するには足りないが、継続開催や事業の趣旨賛同者が増えることによって、新たな販路拡大、または創業支援に繋がっていく面白い事業だと思う。

中小企業振興計画の三本柱の一つである創業促進にかかわり、高専生や学生の若い世代から、主婦やサラリーマンの世代まで幅広い参加者が、創業の疑似経験ができたことで、今後の人生で創業が一つの選択肢のきっかけとなればと思う。

○須田委員（コーチで参加）

高専生の雰囲気普段と全然違った。周りの大人が与える影響は大きい。地域の皆さんと一緒に若者を育てていく、地域に残していくという活動はこれからも続けなければいけないと考えている。

また人材確保・育成部会の要旨の中にも記載があった、ICT人材が不足しているという話について、本校の人材も一度どこかに就職した後、Uターンで戻して開業させる仕組みづくりもしたいと思っている。

コミュニティの形成、地域社会で活躍する大人と本校の学生、教員との繋がりをさらに強め、スタートアップシティ苫小牧を目指したいと考える。

○太田委員（参加者で参加）

自分のチームは19歳の学生も一緒だったが、みんなで意見を出し合い、それを3日間で形にしていくという作業が大変だった。各自それぞれの得意分野でチームとして内容をまとめ、それぞれ役割を全うし、チームそれぞれに一体感があって楽しめた。

異業種の方たちと会う事で、学生たちは苫小牧ってこんなに魅力があって、こんな風に発信して楽しいことをやりたいという大人がこんなにいたんだと思ったようで、これからも続けていくと、色んな人のモチベーションも上がり、グループでラインも繋がって、その後も会える関係が続いているので、とてもいい事業であった。

○高橋会長

第4期の報告書にもある通り、多くの人が集まっていろんなことを話し合える環境作りといえる一つの報告事例として、このスタートアップウィークエンドがそうだったのかなと思う。ぜひ今後も継続していけたらと思う。

-----質疑なし-----

③ 苫小牧市事業承継推進事業について

・事務局より、新年度の新規事業である事業承継推進事業について、現状・目的、事業内容、予算、スキームについて、資料5に基づいて報告した。

○高橋会長

中小企業振興計画の三本柱の一つである事業承継についての事業で、本市の中小・小規模事業者も高齢化が進んでいる中、今まで培ってきた商圈や技術、顧客などを廃業で終わらせるのではなく、譲渡する側の支援ということで事業承継を後押しし、資産を活用して更なる中小企業発展を促す取組としては、いい事業ではないかなと思う。

-----質疑なし-----

④ 就職氷河期世代就職応援事業について

・事務局より、新年度の新規事業である事業承継推進事業について、目的、対象者、事業概要について、資料6に基づいて報告した。

○高橋会長

中小企業振興計画の三本柱の一つである人材確保に関係する事業。求職者支援ということで、人材不足が課題である市内中小企業にとって、氷河期世代など多様な人材の受入れ体制づくりのきっかけになっていければと思う。

-----質疑なし-----

(4) その他

・会長より、本日が第4期最後の審議会であるので、終了後の部会は開催しない。
・各委員から一言づついただきたい。

○綿貫委員

コロナ禍にて世の中の情勢が大きく変わっていく中、市の動向や、考え方等、勉強させて頂いた。緊急事態宣言は解除されそうだが、まだコロナは収まる気配がなく、今後市内の中小事業者としてどのように経営していくか、人材不足もかなり深刻な問題で、来る者拒まずで結果として失敗してしまうのも見ているので、そういう課題も今後考えていければと思っている。

○渡辺委員

私たちの団体20歳から40歳までの青年経済人が中心となっている団体ですので、こういった情報提供等をさせて頂いた。様々な給付金の話や、色々な取り組みなどの話をする中、苫小牧市が中小企業に対し様々なことを行っているのは、非常に勉強になった。

雇用促進にて、札幌ドームで行われた大学生や中途採用の方に向けての事業を支援いただき、苫小牧市内の10社が参加した。コロナの状況という事と、当日の天候が悪かったのもあり例年通りの人数ではなかったが、実際に参加した企業

は、単独でそういった機会に飛び込むことが難しい中で機会をいただいてありがたかったという声を頂いたことを、併せてご報告させて頂く。

○平井委員

コロナに立ち向かうのは大変だが、中小企業が頑張らないと街も良くなならないし、出来るだけ寄り添う形で支援を継続していきたいという気持ちを、審議会を通じて新たにさせて頂いた。

○須田委員

この審議会に出てよかったと思う事が何点もあり、色々なことがわかってきた。まずコミュニティを作ることが大事だと再確認した。来年度、本校のサテライトオフィスである「C-base」にて、気軽に立ち寄ってちょっとした仕事や、コミュニケーションをとれるドロップイン施設を、商工会議所と市と協力してスペースを広げオープンさせる。どんどん利用してコミュニケーションの輪、コミュニティの輪を作っていただけたらと思う。この施設を利用してJST（科学技術振興機構）の助成金が設備の整備費用として入る予定なので、カッコいいスペースをつくっていきたくて考えている。

ITの集積も大事だと再確認できた。ITの人や、若い人がいれば地元にも仕事がある、小さな企業にも大きい企業にも十分な仕事があるということがわかり、これからどんどん増えると思う。

商工会議所や苫小牧市、産学官金連携協定機関の協力もあり、本校OBの藤原さんの講演を行った。彼もIT事業者の成功者ですが、地元に関心を持って何か還元したいと意欲をたくさん持っているので、彼らのネットワーク、コミュニティで何かやってくれると思っている。

○坂本委員

今回はコロナ禍という事で、今は大きなダメージを受けており、今月から苦労しているところだが、他の飲食業を中心にもっと苦しい産業がたくさんある中で、販路拡大・需要開拓部会のコンテンツが非常に大事になってくると考えている。一歩でも二歩でも進めればと考えている。

○尾崎委員

販路拡大・需要開拓部会に参加し、普段事務所が室蘭にあるので苫小牧の情報を得ることが多々あった。室蘭に持ち帰り、販路拡大に関するセミナーを開いたり、創業の部会の報告書を見ながら創業セミナーも開催させて頂いた。多くの事業に繋げることが出来た。

○太田委員

公募委員として初めて参加させて頂いて、女性の意見も聞いてくださり気持ちよく発言できた。これから苫小牧でも色々なことが出来るのではないかと可能性を感じた。

○伊藤委員

未来の苫小牧にコミュニティが出来たり、新しいことが出来たり、学生の方が一旦苫小牧を出たとしてもまた戻って来られるようなことをチャレンジしていく事は、とても素敵なことだと思った。

何か新しいことをするときには色々な意見があると思うが、根本的には「何だったのか」「何が問題になっているのか」「何を解決していったらいいのか」と言うような話もたくさん聞いた。

市で取り組まれている事がわかったことが重要な2年間だった。

○秋山委員

長く審議会に関わっているが、今日一番嬉しかったのは、事業承継推進事業が新規事業として捉えられたという事と、就職応援事業、まさしく3つの創業促進、事業承継、人材確保・育成部会の成果という事で、私個人としては良かったと思う。

○遠藤副会長

第4期の審議会が始まる時に、岩倉市長から具体的な事業をという指令を受けていた。コロナの中でなかなか進めづらい状況であったが、スタートアップ事業や苫小牧も事業承継のサテライトを4月からスタート出来るという事で、少しではあるが具体化できたのかなと思う。

苫小牧では創業したい方が結構いて、会議所の立場としても創業支援は今後も力を入れて進めて行きたいと思う。

○会長

2年間に渡り本職を務めさせて頂いたが、委員の皆様方、産業経済部の皆様方には大変お世話になりました。

中小企業家同友会という立場から部会、審議会の方に携わり、中小企業振興、まさに土台となる部分で苫小牧市役所から委託を受けて、市民の皆様方、他関係、各位の皆様方と様々な議論を通した中で、様々な考え方から導き出された答えの一つ一つが具体的な事業となって表すことが出来たのかなと思う。

コロナウイルス関連に関しては、会社自体は非常に打撃を受けており、今年の1月が一番ひどく、前年対比で9割ダウン。一昨年を振り返ると、1月2月から事業をしてないので、全く収入がない。先のことを考えると見通しが全然出来ない中で、ご指導を頂いて新たな事業を考えており、こういう時だからこそ何か自分達も発信をしなければいけないし、勉強しなければいけない。人にも頼らなけ

ればいけない、色々な事を考えなければならぬと改めて考えた。その中で市役所から出される政策等、注目しながら歩んできた1年間だった。

これから第5期に移るが、経験した事を含め、苫小牧に必要な政策は何だろうと、審議会、部会の中でも様々な意見を頂き、作りあげた4期だと思う。

これからも引き続き、人間関係を含めてこの苫小牧市のために様々な形で携われたらと思う。

○金谷部長

約2年間にわたりまして、本当に熱心に議論していただきましたこと、心より感謝申し上げます。

審議会、各部会で積極的な議論を行っていただきましたが、全国で猛威をふるっている新型コロナウイルス感染症の影響により、中小企業を取り巻く大変な環境は現在も続いていると思っており、本審議会も感染拡大防止の観点から昨年5月の開催予定が中止となるなど、非常に大きな影響を受けたところでございます。

このような状況の中、昨年度は中小企業に対する情報発信ポータルサイト『とまサポ』を構築、今年度も、新たな取組となる『スタートアップウィークエンド』を審議会の皆様のご尽力により無事開催することができました。

このコロナ禍において、市では感染症の影響を受けた事業者向けに各種支援策等を実施してきたところであり、新年度についても、引き続き地域経済を支える中小企業の振興策ということで、継続して取り組んでまいりたい。

今回まとめられました報告書は、次期審議会に引き継がれ、今後の中小企業振興に大きな役割を果たしていくものと期待しており、様々な観点から具現化に向けた取組を進めていかなければならないと、皆様方の意見を聴きながら感じている。今後も引き続き本市の中小企業振興をはじめとした市政運営について、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(5) 閉会